

想起のモンタージュ：大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）の場合

佐野明子（桃山学院大学）

◆ “記憶” と “想起” の区別

・ 記憶＝＜技＞＝蓄えること インプットとアウトプットの一致 知識 機械にできる

・ 想起＝＜力＞＝思い起こすこと 再構成 経験と関連 内在的な力 忘却 抑圧

機械にできない

(Assmann 1999=2007 : 43-44)

◆ モンタージュ

① 映像作品における編集

② 「歴史のあらゆるシーケンスのなかで活動している時間の不連続性を視覚的に展開する方法」(Didi-Huberman 2002=2005 : 508)

◆ 上昇と下降：戦艦大和イメージの二重性

・ 上昇・・・展示内容：1/10 模型大和＝「近代化産業遺産」

科学技術・宇宙開発の未来

宇宙戦艦ヤマトのコーナー（宇宙開発の映像展示の付近）

・ 下降・・・展示内容：大和＝沖縄特攻作戦で沈没

（引き揚げ品、戦没者の遺品、遺影、証言映像）

「世界三大無用の長物」「大和ホテル」などマイナスイメージを捨象
近辺施設で映画『男たちの大和』セット展示

↓

「悲劇」と「未来」の想起を促す

複数の文化的記憶を配置し、広い観客層に訴える

* 悲劇と文化的記憶

「戦後の日本社会の場合……戦争の「被害」に関する記憶が強固に形成され、「加害」の記憶は忘れ去られる傾向があった」（吉田 2006 : 237）

「文化のなかに残存するもの、それはなによりもまず悲劇的なものであるため、文化は本質的に悲劇的である」（Didi-Huberman 2002=2005 : 160）

* 未来とアイデンティティの構築

「国家や国民といった集合的な行為主体は、機能的記憶を介して自らを構成する。この記憶によって、それらの主体は特定の過去を構成しておくのだ」（Assmann 1999=2007 : 167）

機能的記憶：想起の様態のひとつ。

特定の集団とつながり、価値に拘束され、未来に向けられている

◆歴史化と科学化：呉市海事歴史科学館としての大和展示

「共同体のために戦争で死んだ人々、それらの死者を管理するにあたって、主に2つの方向が考えられる。歴史化と科学化である」(Jeudy 2002=2002 : 76)

*戦争遺産を展示する他のミュージアム

- ・国立科学博物館：「ゼロ戦」展示→日本の科学技術史の一部として“科学化”
- ・靖国神社遊就館：「戦艦大和の砲声」他展示→日本の戦史の一部として“歴史化”
- ・国立歴史民俗博物館：第二次大戦の展示が長らく不在

(2010年3月16日より「戦争と平和」コーナーがオープン)

*構想過程における軍事色への懸念

「県側からできるだけ軍事色を出さないほうがいい、旧海軍のことが強く出てくると、呉市としては正当化できても県としては採り上げにくい……等々の意見があり、呉市としても市議会や市民から軍事色が出ることへの批判が予想されることもあり、博物館建設の趣旨・目的としては、あくまでも造船を主幹産業とし、造船王国日本の一翼を担ってきた地域として近代造船技術の保存・展示・伝承をしていくことを強調していた」(小笠原 2007 : 138)

→以下の注意書きをそえて、ゼロ戦や人間魚雷回天も展示。

「ここで展示した大型資料は呉海軍工廠、広海軍工廠の技術的水準の高さとこれを達成した先人たちの努力を示すものです」

「ある文化において残存するのは、この文化のもっとも抑圧され、もっとも暗く、もっとも遠く、もっとも執拗なものである。ある意味で、もっとも死んでいるものである。というのは、もっとも忘れ去られ、もっとも幽霊的だからである。同様にもっとも生きているものである。というのは、もっとも動き、もっとも近く、もっとも欲動的だからである。それが<残存>の奇妙な弁証法である」(Didi-Huberman 2002=2005 : 161-2)

◆オリジナルと複製の混在

- ・オリジナル：大和の引き揚げ部品、戦没者の遺品、遺影
- ・複製：1/10大和模型、プラモデル（ミュージアムショップ）

*戦争遺産のテーマパーク化

「戦争遺産は、明らかに消し去ることのできない近代の否定的側面を示している。……しかし、遺産の多くは、しだいにその否定的な側面が消されていく。当初は、遺産の保存を決定すること自体が画期的なできごとであっても、時間が経つにつれ、負のイメージが消されていく」(萩野 2000 : 212)

* シミュラークル（模造）の強度

オリジナルとコピーのあいだの区別を曖昧にし、歴史的時間の直線性を混乱させる

- ・ 1/10 大和模型：順路の最初に展示。写真撮影サービス有り。
- ・ ミュージアムショップのグッズ
プラモデル、フィギュア（戦艦大和、人間魚雷回転、宇宙戦艦ヤマト他）
大和と広島の名産品のコラボ
大和キューピー

◆ 広島の記憶の多層化：負の遺産から正の遺産へ

「負の遺産とは、人によっては、早く忘れてしまいたい忌々しい記憶を思い起こさせるで
きごとと、それに関連する事物である。原爆ドームが、その典型である」（萩野 2009：49）

- ・ 原爆ドーム＝負の遺産「聖性と超越性を付与」（米山 1999=2005：112）
広島の中心的なシンボル
キーホルダーや絵葉書に模造されるが、キャラクター化されない
- ・ 戦艦大和＝正の遺産？
大和ミュージアムは呉市にとどまらず「広島の「明るい」新たな記憶の
景観の生産」（米山 1999=2005：105）の一部？

<参考文献>

- Assmann, Aleida, 1999=2007, 安川晴基訳『想起の空間：文化的記憶の形態と変遷』水声社.
- Didi-Huberman, Georges, 2002=2005, 竹内孝宏・水野千依訳『残存するイメージ：アビ・ヴァ
ールブルグによる美術史と幽霊たちの時間』人文書院.
- Jeudy, Henri - Pierre, 2002=2002, 齊藤悦則訳「カタストロフィの記憶」『文化遺産の社会学：
ルーヴル美術館から原爆ドームまで』新曜社、130-144 頁.
- 小笠原臣也、2007、『戦艦「大和」の博物館：大和ミュージアム誕生の全記録』芙蓉書房出版.
- 萩野昌弘、2000、「負の歴史的遺産の保存：戦争・核・公害の記憶」片桐新自編『歴史的環境の
社会学』新曜社、199-220 頁.
- 、2009、「展示への権利：美の展示と暴力の展示のすき間に」川口幸也編『展示の政治学』
彗星社、41-59 頁.
- 米山リサ、1999=2005、小沢弘明・小澤祥子・小田島勝浩訳『広島：記憶のポリティックス』岩
波書店.
- 吉田裕、2006、「加害の「忘却」と日本政府」『視覚表象と集合的記憶：歴史・現在・戦争』旬報
社、237-253 頁.